

秋田駒ヶ岳の火山活動解説資料（平成 29 年 12 月）

仙 台 管 区 気 象 台
地域火山監視・警報センター

火山性地震はやや多い状態で経過しましたが、その他の観測データには特段の変化はみられず、火山活動に活発化の兆候は認められません。

女^め岳では地熱活動が続いています。また地震活動がやや多い状態で経過しましたので、今後の火山活動の推移に注意してください。

噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1、図 2-①）

仙岩峠監視カメラ（東北地方整備局）による観測では、女岳からの噴気の高さは30m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

・地震や微動の発生状況（図 2-②③、図 3）

男^{おな}女^め岳山頂付近及び男女岳の北東約 4 km を震源とする火山性地震が増加し、12 月の火山性地震の回数は 60 回（11 月は 20 回）とやや多い状態で経過しました。その他の観測データには地震活動に伴う特段の変化はみられませんでした。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図 4、図 6）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図 1 秋田駒ヶ岳 女岳周辺の噴気の状況（12 月 7 日 08 時 53 分頃）

- ・仙岩峠（女岳山頂の南約 5 km）に設置されている監視カメラ（東北地方整備局）による映像です。
- ・実線赤丸で囲んだ部分が女岳からの噴気で、この時観測された噴気の高さは 30m です。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成30年 1 月分）は平成30年 2 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院及び東北大学のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

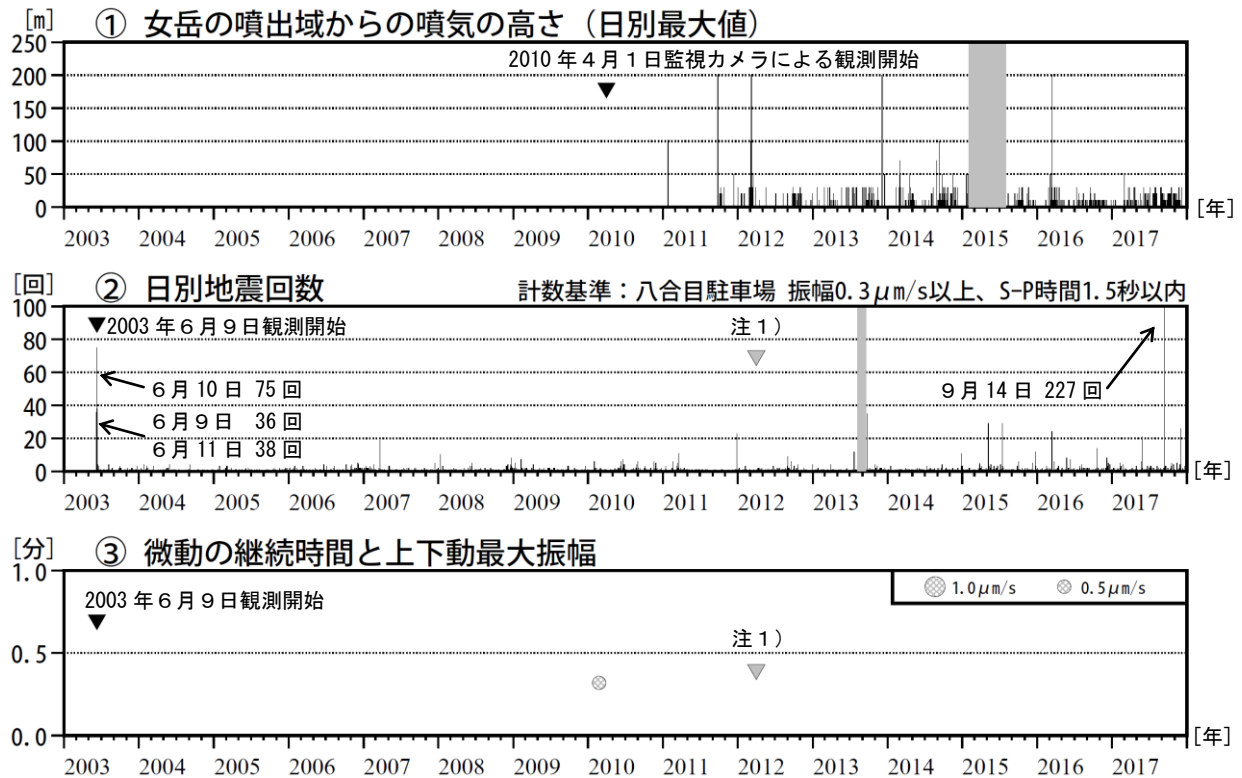


図2 秋田駒ヶ岳 火山活動経過図（2003年6月～2017年12月）

- ・①仙岩峠（女岳山頂の南約5km）に設置されている監視カメラ（東北地方整備局）による観測です。
- ・①②の灰色部分は欠測を表しています。

注1）観測開始の2003年6月9日から東北大学秋田駒ヶ岳観測点を基準としていましたが、2012年4月1日から八合目駐車場観測点を基準としています。

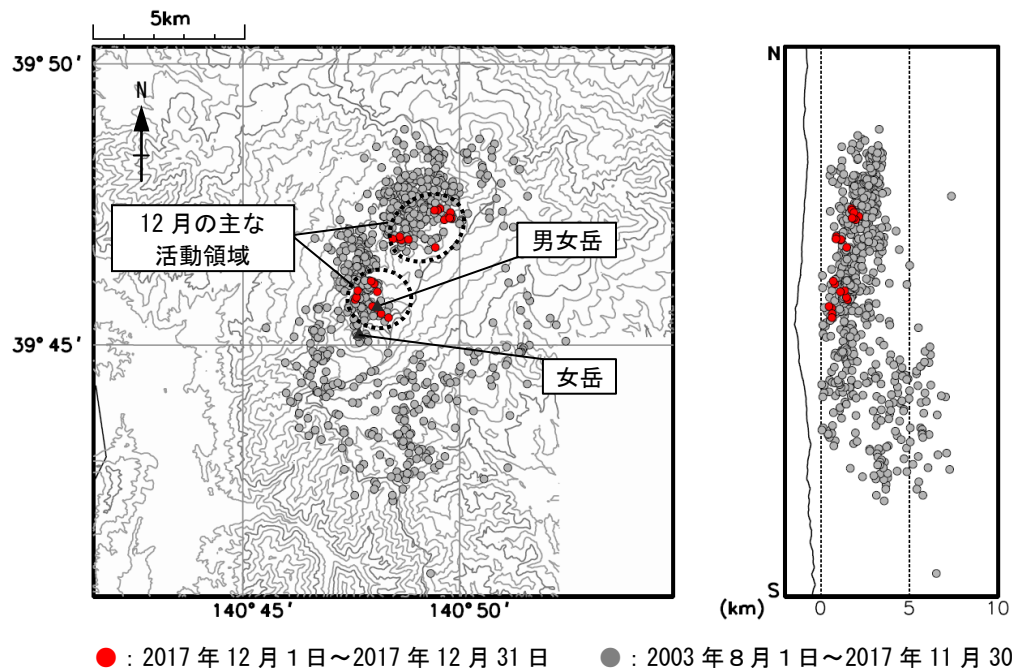


図3 秋田駒ヶ岳 地震活動（2003年8月1日～2017年12月31日）

- ・今回、男女岳山頂付近及び男女岳の北東約4km付近で地震活動がみられました。
- ・2017年8月1日から震源計算方法を変更しています。

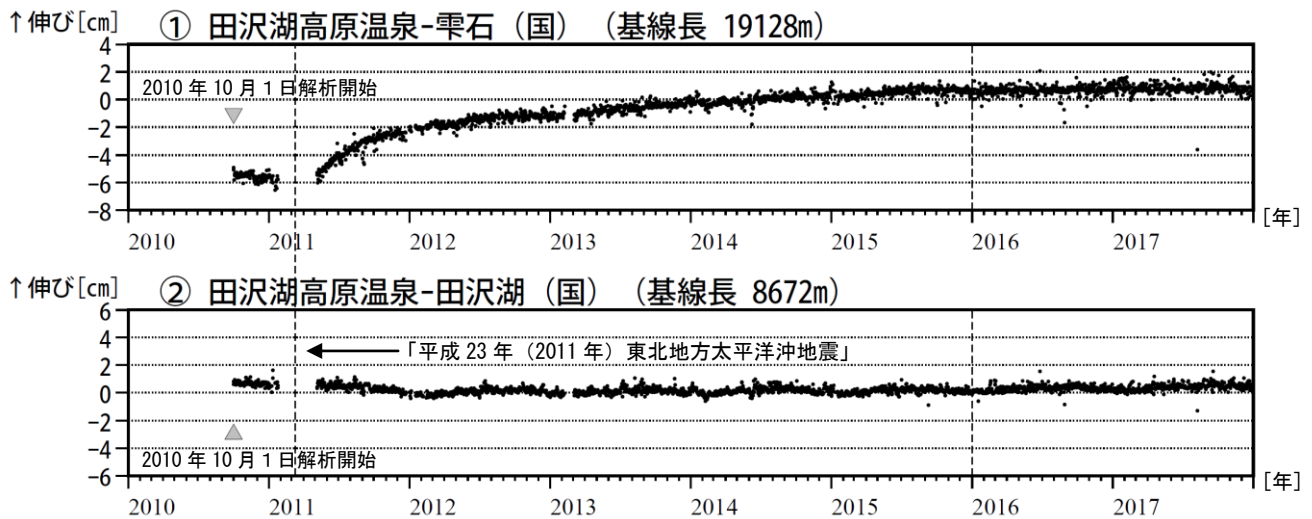


図 4 秋田駒ヶ岳 GNSS¹⁾ 基線長変化図（2010 年 10 月～2017 年 12 月）

- ・①の基線では、「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・①～②は図 6 の GNSS 基線①～②に対応しています。
- ・グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ・（国）は国土地理院の観測点を示します。
- ・2016 年 1 月以降のデータについては、解析方法を変更しています。

1) GNSS とは Global Navigation Satellite Systems の略称で、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示します。

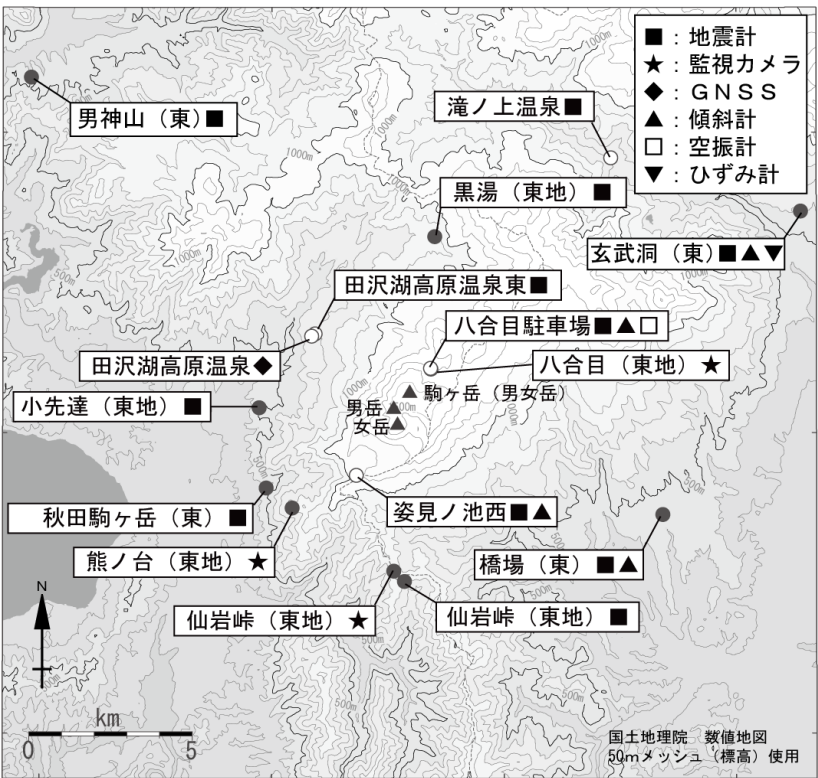


図5 秋田駒ヶ岳 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点の位置を示しています。

(東地) : 東北地方整備局 (東) : 東北大学

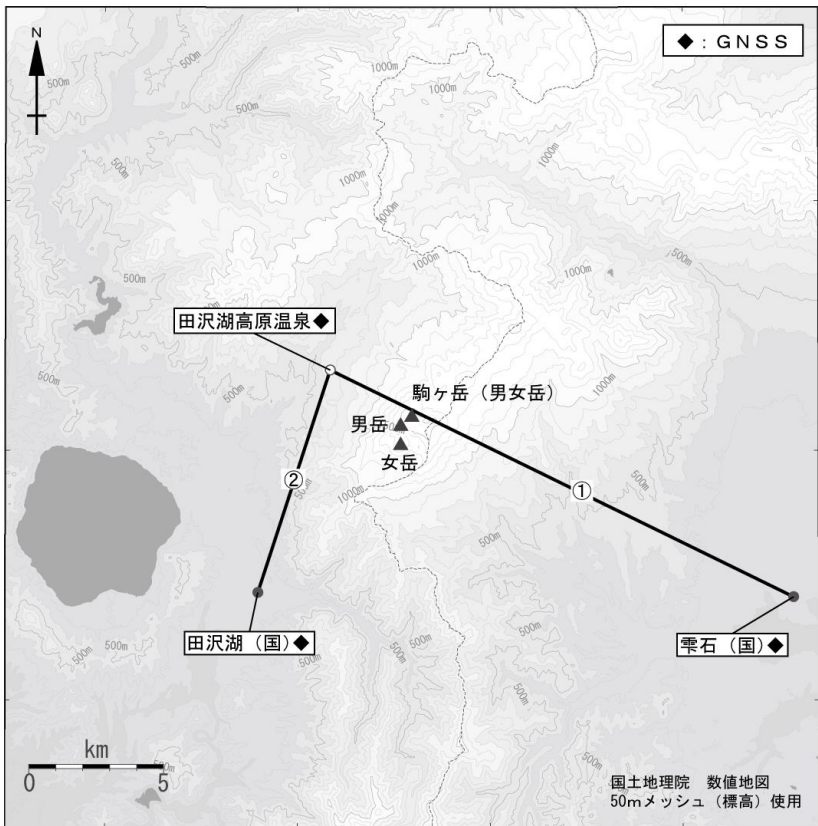


図6 秋田駒ヶ岳 GNSS観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点の位置を示しています。

(国) : 国土地理院